

県内のごみ処理状況について

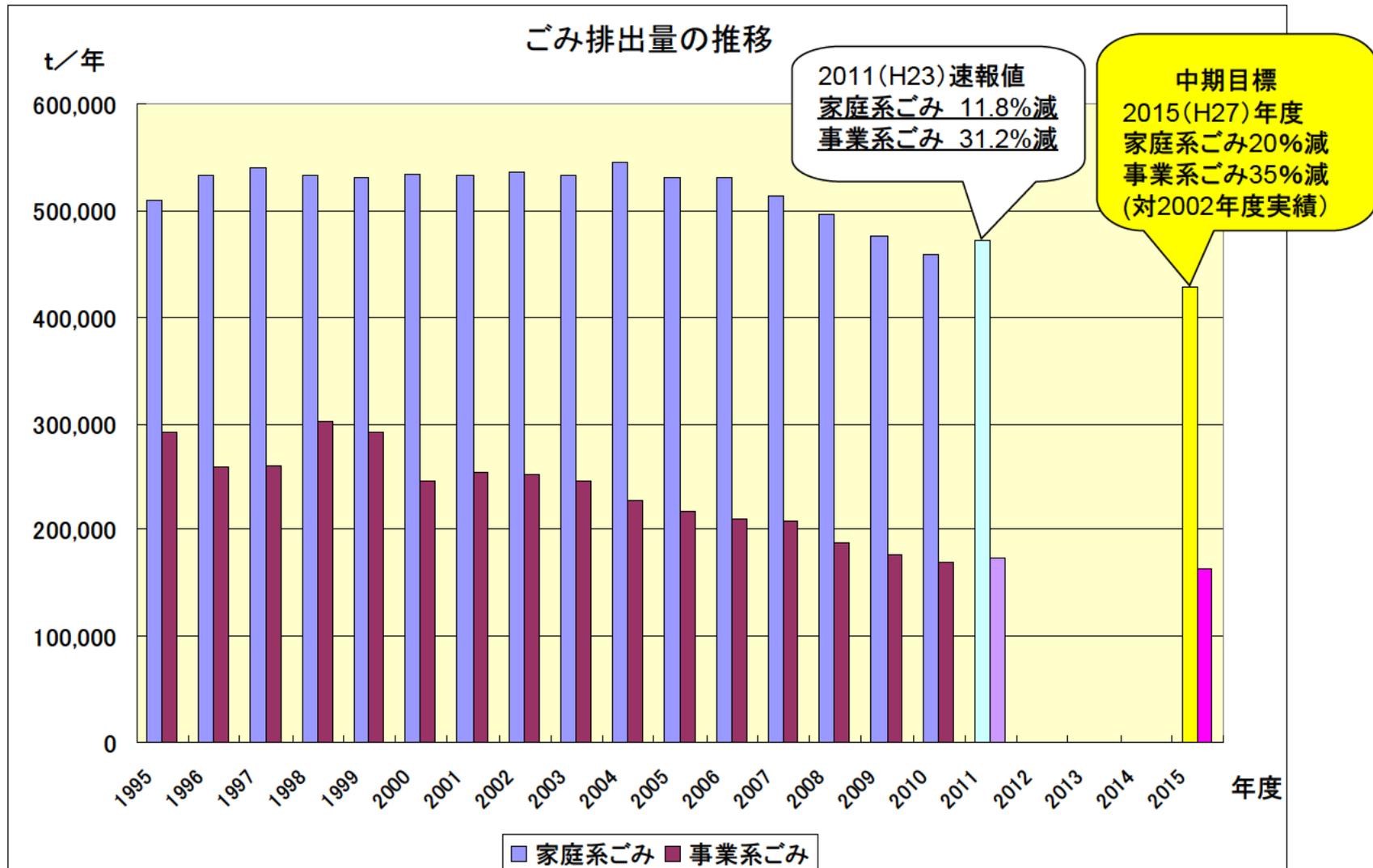
(平成23年度速報値)

(1) ごみゼロプランに掲げる数値目標に関する進捗状況

(トン/年)

指標名		2002年度 (確定値)	2010年度 (確定値)	2011年度 (速報値)	2002年度比	備 考	中期目標 (2015)	数値目標 (2025)
ごみ排出量 (2002年度比)	家庭系 ごみ	535,198	459,720	472,207	-11.8%	紀伊半島大水害の影響 で前年度比2.7%の増加	-20.0%	-30.0%
	事業系 ごみ	251,733	169,005	173,264	-31.2%	2011年度速報値は、事 業系ごみが減少から僅 かに増加に転じた市町 が増加。	-35.0%	-45.0%
資源としての再利用率		14.0%	13.0%	15.7%		紀伊半島大水害の災害 廃棄物のリサイクルが進 んだ。	22.0%	50.0%
		110,781	82,012	101,411				
(参考)資源化率		22.4%	30.6%	30.9%				
資源化量		183,305	200,168	207,394	13.1%			
集団回収量		29,629	25,193	24,777	-16.4%			
最終処分量		151,386	55,309	52,125	-65.6%	各市町の取組のほか、 紀伊半島大水害の災害 廃棄物についてはリサイ クルが進んだため、最終 処分量が減少。	55,000	0

(2) ごみ排出量の推移

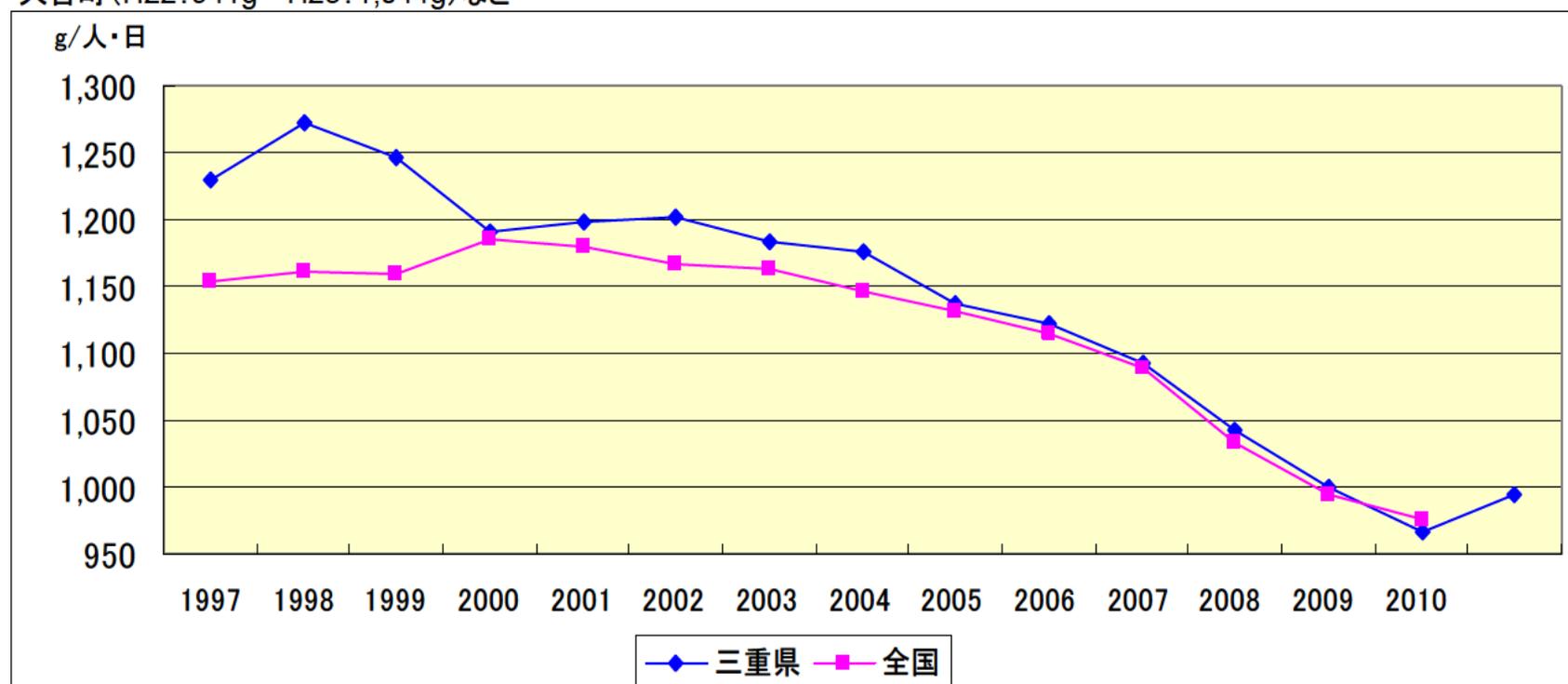


(3) 1人1日あたりのごみ排出量

平成23年度の実績では994gと紀伊半島大水害の影響により前年度(966g)と比べ増加しました。

平成23年度における市町ごとのごみ排出量を比較すると、最大は3,752g(紀宝町)、最小は589g(朝日町)と、災害廃棄物の排出量が多かった市町で、排出量の大幅な増加が見られました。

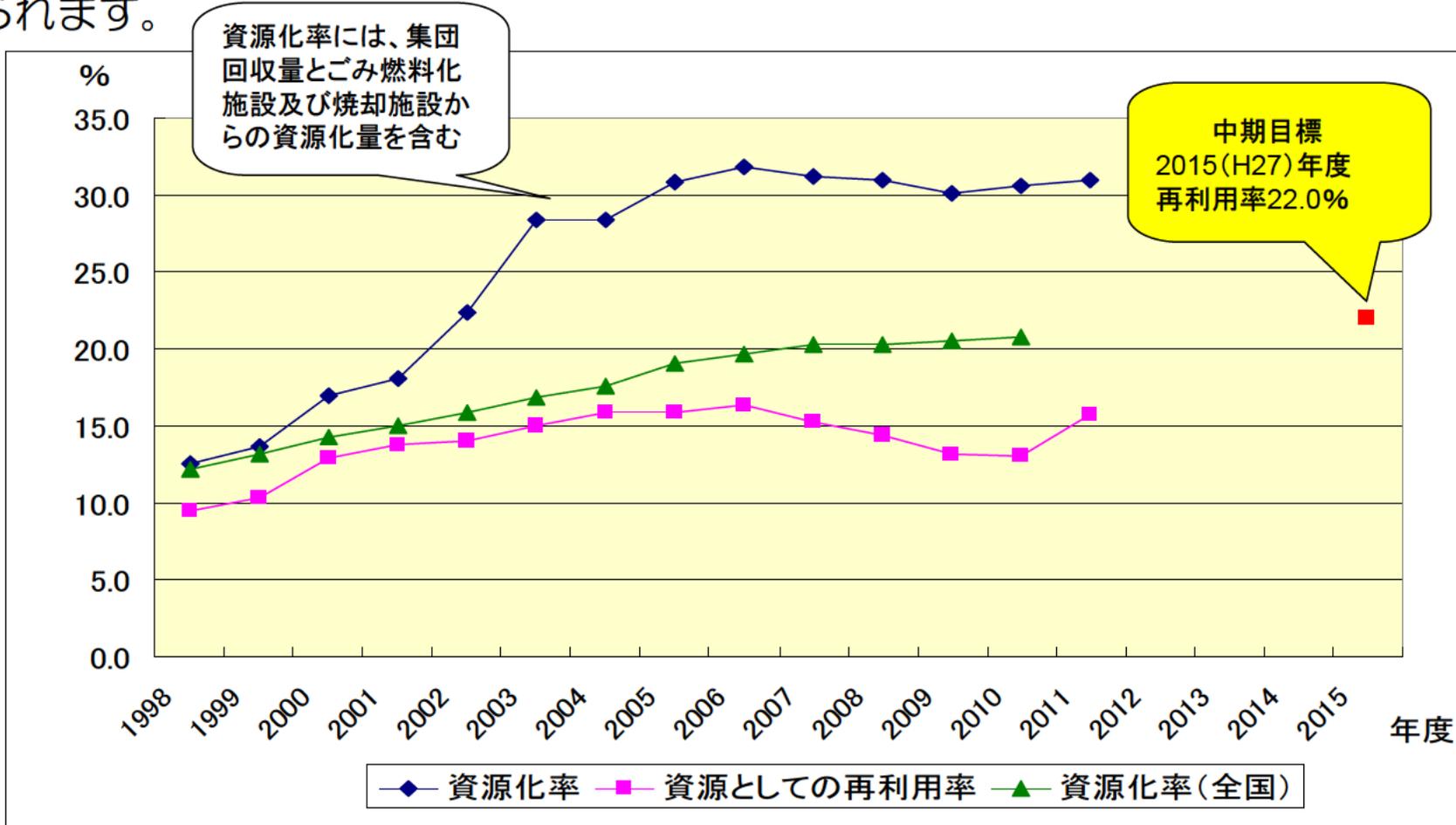
【参考】主な1人1日あたりのごみ排出量増加市町:紀宝町(H22:838g→H23:3,752g)、熊野市(H22:722g→H23:1,765g)、大台町(H22:941g→H23:1,044g)など



(4) 資源化率・資源としての再利用率の推移

平成23年度の資源としての再利用率は15.7%と、前年度と比較して2.7%増加しました。

これは、紀伊半島大水害の災害廃棄物のリサイクルが進んだことが原因と考えられます。



(5) 最終処分量の推移

平成23年度の最終処分量は52,125 t と、前年度55,309 t と比較して3,184 t 減少しました。

これは、市町の最終処分場の延命化の取組などにより大きく減少したほか、紀伊半島大水害の災害廃棄物のリサイクルが進んだことが原因と考えられます。

